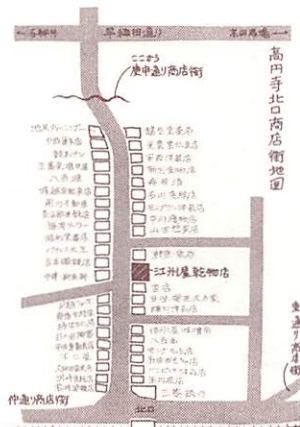


装画・地図 植松利光

直木賞に輝く高円寺のふたりの作家
原田 弘

高円寺北口銀座商店街が、高円寺純情商店街とその名称を変更してからもう何年になるのか。平成二年にこの北口商店街の江州屋乾物店のねじめ正一が、少年時代の店や北口商店街などの人間模様を作品として、その題名も「高円寺純情商店街」と発表、作家の登竜門でもある「直木賞」をもとの見事に受賞、一人を「あつ」と驚かせたものです。高円寺北口銀座は、この作品名を記念して名称を「高円寺純情商店街」と改名しました。この作品は平成二年新潮社から出版され、高円寺の名は全国に知



昭和30年代の北口商店街

れ渡りました。今迄の商店街から銀座の名がはずされました。

全国いたるところ銀座を冠した名は沢山あり、五百近くあるとのこと。特に戦後、街の復興と繁栄を願って付けられたもので、本家は勿論中央区銀座ですが、その第一号というのは関東大震災後に出来た戸越銀座と云われています。高円寺のこの名称変更は大変珍しく、マスコミも早速取り上げました。銀座を冠したのとは別ですが、銀座を改名したのですからニュースになったのです。彼の作品が街の名称まで変えました。しかしどうでしょう、この高円寺北にもう一人直木賞作家が生まれました。第一〇八回直木賞でこれも見事に勝ち取ったのが、北四丁目芳雅堂という古本屋の

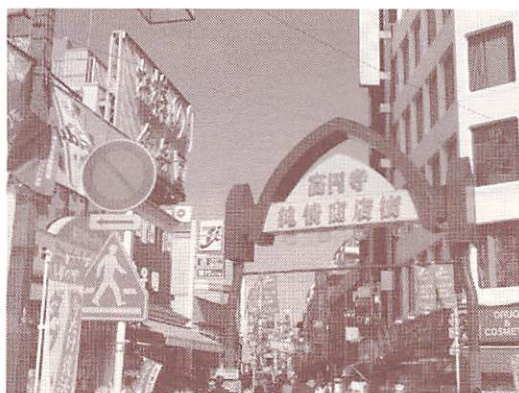
店主出久根達郎という方です。昭和三十年初頭、中卒の集団就職組の一人として茨城県から上京した人です。出久根少年は元来本を読むことが好きなので、古本屋を希望して隅田川河口佃島にある文雅堂という古本屋へ奉公することになりました。周囲にある本は皆な先生だと主人に言われ大いに勉強させてもらい、後に世帯を持ち高円寺北で商いは専ら夫人に、本人は作品に取り組んでいたようです。

出久根達郎
佃島ふたり書房



装画 村上豊

直木賞発表の日、私（筆者）がぼんやりテレビを見ていると、知人が「今夜直木賞の発表がある。出久根さん合格するかもしれないよ」と云いましたが私は「まさか、彼が物書きなど聞いたことない」と言いました。やがてテレビの受賞者発表に本人の名前がありました。古本屋芳雅堂店主出久根さんの姿が現れました。作品は「佃島ふたり書房」、「へエー」感嘆の声。凄いな、高円寺北から又直木賞作家が誕生した、ねじめ正一さんに続いてふたり目です。それまでよく中野サンプラザ前広場での大古書展で大きい透る声の呼びかけしていたこの人が、この夜を境に著名な作家となり、賢いことに彼は堤の堰を切ったように新作を次から次へ発表、雑誌に新聞に又人生相談など、その幅の広さ。高円寺のふたり作家、今は兩人共活動拠点を阿佐ヶ谷に移していますが、益々油の乗った作家、高円寺の誇りでもあり区の人的功労者とも言えましよう。青少年諸君もこのお二人を見習って下さい。

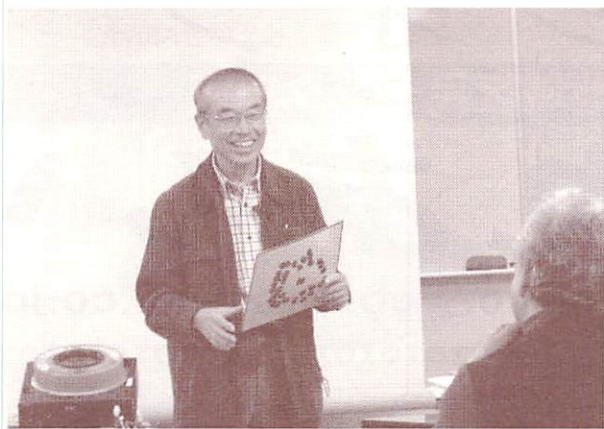


現在の「高円寺純情商店街」入口

原田 弘氏
杉並郷土史会会長・(元)日本歴史学会会員・杉並区文化財保護指導員・日本ペンクラブ会員

寄稿
「春の七草」

園芸研究家
高橋 勝雄氏
(元NHK「趣味の園芸」講師)



新春の一月七日、この日に「春の七草」を「かゆ」に入れて食べる習慣が、さっと千年あまりも続く昔からの食文化の一つです。「七草がゆ」を食べると、邪気を払うので病気になるいと言われています。

「春の七草」の名は、「セリ、ナズナ、コギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ、これぞ七草」です。

セリは、おなじみの山菜です。田んぼの畦道とか湿った所に群生しています。独特の香りが、春を感じさせてくれます。ナズナは、戦前の下町では、「なずなー、なずなー」と七草売りが声に出すほど、大切な草でした。この草の実が三味線のばちに似ていることから、ペンペン草の名が付きました。でもこのペンペン草の名は芳しくない意味で使われています。「庭の手入れをしないので、ペンペン草が生えています」といった風です。

コギョウはオギョウともいいます。どちらも、漢字で御形。漢名は鼠麴草。葉がネズミの耳に、花が糞に似ていることからか。道端でよく見かけるハハコグサのことです。草餅に入れる草は、このハハコグサが「元祖」でしたが、ヨモギの方が香りが良くて、緑が濃く出るので、ヨモギにとって代わられました。

ハコベラは、ハコベのことです。小鳥のえさに摘んで与えた人も多いためです。この草は練り歯磨きの「元祖」です。火にかけたほろろくに塩を入れ、ハコベの絞り汁を少し



ずつ加えていき、塩を緑色に染めまします。これを「ハコベ塩」といい、昔は指に付けて歯を磨いたのです。ホトケノザは、キク科のコオトナビルコの名です。田の畦道で見かける草です。花も草姿もタンポポの

「弟分」に見える草です。シソ科のホトケノザは「春の七草」に入りません。スズナ（鈴菜）は、カブ（かぶら）のことです。根が鈴に似ているからです。スズシロ（清白または羅葡）はタイコンのことです。この七草の内、セリだけが多年草

次号159号は
3月20日
発行予定です

で、その他は一年草か越年草でタネを採ってまきます。飾りかごに入った七草は、大きな鉢に植え替えて、日なたで育てます。

十一月二十七日（火）、コミニティすくすくで、めでたい名、縁起の良い名の植物の話を高橋先生にさせていただきました。講演では、めでたい植物の名として、「福寿草、連福草、吉祥草、幸福の木など」、縁起のよい植物の名は、お正月に飾る「燈、ユズリハ、ウラジロやコマチシダ、野老（ところ）、今年の干支「子」に因んだ植物としてネズミガヤ、ソビ等を挙げられていました。今回、先生にお正月の話題に相応しい「春の七草」について、寄稿していただきました。写真は、その時の熱演の様子です。講演の時の話題を含めて、植物に関する話題に興じていただければと思います。